

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 2 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104401		
法人名	テルウエル西日本株式会社		
事業所名	N T T グループケアポート広島 認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	広島市南区比治山本町11-1		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年12月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「支え合い共に創る生活」理念から本人の希望、家族の願いを一番に生活リハビリの視点（イリコの頭とり、じゃがいもの皮むき等調理の手伝い、食事のメニュー書き、洗濯物たたみ、レクの指導役、掃除手伝い、季節感あるリビングの壁飾りの作成手伝い）その人らしさが発揮できる得意分野で成功体験の積み重ね。人の役に立っている、必要とされている充実感を味わい暮らしを共に楽しむ。誕生日、初詣、梅見、花見、花火、盆踊り、敬老会、菊見、亥の子、クリスマス会、ドリミネーション見物、畑の農作物収穫等を通じ四季を感じて頂く。毎月の音楽療法で脳の活性化。毎週の歯科衛生士による口腔内チェックと疾患予防になる毎食後の口腔ケア、定期的な保育園児の訪問、中学校の職場体験学習や介護福祉専門学校の実習生の受け入れ、認知症高齢者についての相談、認知症サポーター養成講座の講師派遣等地域貢献にも力をいれています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>N T T グループケアポート広島（以下、ホーム）は、開設して8年が経ち、これまで認知症高齢者のケアについて様々な経験を積み重ねてこられました。「支え合い共に創る生活」をホームの理念とし、スタッフは生活の良きパートナーとして入居者の自発性を引き出すことに努めておられます。持てる力が発揮され、役割を担うことこそ生活リハビリにつながるという思いの中で、一人ひとりへ「やる気」を尊重した言葉かけが行われています。毎月、担当スタッフから入居者の日常を細やかに記した「レター」や写真満載の「ケアポート広島通信」が家族に送られ喜ばれています。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「支え合い共に創る生活」を毎朝のミーティングでスタッフ一同唱和し日常生活の中で共通の認識のもとに自然に実践できるように努めている。	理念は、設立時に関係者が話し合いつくりられました。スタッフの行動指針として意識化され、様々な生活場面に活かされています。スタッフは、入居者の生活のパートナーとして、同じ目線に立った生活環境づくりに日々努力されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事の盆踊りに参加して踊ったり亥の子祭りに参加して一緒に楽しんでいる。近くの保育園児の歌や踊りの訪問、中学生の職場体験学習を受け入れ芋ほり等を一緒にする。介護福祉専門学校の生徒の介護実習Ⅰ、Ⅱを受け入れている。ケアポート感謝祭で地域の老若男女の方楽しんでもらえる催しを入れている。	町内会に加入し、幅広く地域と付き合いができるよう情報収集に努めておられます。地域住民との交流や、来訪者を積極的に受け入れ、入居者が心豊かに生活できるよう支援されています。ホームと併設事業所の合同イベントである「ケアポート感謝祭」には、地域から多くの参加があり入居者と楽しい時間を過ごされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター、市の依頼で町内会、銀行、県立高校衛生看護科、企業で認知症アドバイザー養成講座の講師を派遣したり来所や電話での認知症相談にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回の目安で開催している運営推進会議には家族、地域支援センター職員、民生委員、区役所介護保険係職員、歯科衛生士に参加してもらい取り組みの報告、地域や行政の情報を含め意見交換を行っている。	会議は、2か月ごとに地域の集会所で開かれています。ホームの近況報告や意見交換が行われています。今年度は歯科衛生士の参加もあり、口腔ケアの観点から助言を受けるなど新しい試みを始めておられます。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	「南区の食と風土を考える会」に参加、運営推進会議に区の職員の参加をお願いしたり市の要請を受けて認知症アドバイザー養成講座の講師派遣も行っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があります。ホームは「南区の食と風土を考える会」の活動に協力し、地域の高齢者の生活向上に尽力されています。また、認知症アドバイザーとして認知症高齢者についての啓発活動もされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束マニュアルは作成しているが、今まで実施に至ったことはない。</p>	<p>ホーム理念に沿って、身体拘束をしないケアに徹底して取り組まれています。スタッフは拘束による弊害をよく理解し、家族の理解と協力を得ながら、ホームでの暮らし方を工夫されています。拘束のないケアによって入居者に安心感が生まれ、落ち着きを取り戻されたという経験を多く持たれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフが虐待防止の外部研修に参加しそれを部内研修で全員に周知し、ミーティングや日常業務を通じて確認し合い施設としても重要な取り組みの1つとしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ご家族に成年後見制度の活用をお願いしたりスタッフに制度の趣旨、内容について一層の理解をしてもらうために部内研修で取り上げる予定。管理者は成年後見人養成研修受講済み。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書の内容、運営規定、重要事項説明書について契約時に説明し、日々の生活での個別対応や将来の希望等をお尋ねしたり相談に乗ったりしてご理解頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者様の状況は毎月担当スタッフからご家族に手紙で報告し来所時にもご意見をいただいている。管理者は携帯電話での相談も常時受けている。カンファレンスもご家族の希望の日時での設定を心掛けている。苦情等の外部機関については重要事項説明書に記載して説明している。</p>	<p>家族からの相談は時間帯や手段を問わず受ける姿勢があります。家族からは、様々な相談や要望が寄せられています。ホームでは、家族が気軽に相談できる雰囲気づくりを心がけておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する意見・提案については日々の申し送り時やミーティングで意見交換し運営の参考になっている。	ミーティングやカンファレンスでは、スタッフが自由に発言されています。管理者は、職員がいつでも気づきや意見を出し、相談できる風通しの良い環境に配慮されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働条件や評価については社内規定による。処遇改善手当もスタッフに還元している。自己研鑽のため「資格取得奨励金制度」「通信教育会社支援制度」をもうけておりスタッフの自己啓発、向上心を高める環境づくりをおこなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの資質向上は必須のため部内研修は毎月開催している。部外研修も各スタッフ順番に受講し学んだ事を部内研修講師を務めることにより如何にしたら解りやすく人に教えられるかの学びの場としより深く理解するように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	「グループホーム事業者交流会」には役員としても参加しており活動を通じて利用者の紹介、空き部屋情報の共有等ネットワークを構築している。施設見学を兼ねた交流会、介護や認知症、看取り等のグループワーク、講演会・研修会にも都合のつくスタッフはなるべくたくさん参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心・安全・快適な生活を送っていただくため御本人の生活歴をできるだけ詳しく教えていただく。ご利用者様各自に担当者を決めている。カンファレンスにはご本人、御家族の参加をお願いしご本人や家族の希望をお伺いしてケアプランを立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み、見学があった時点からいつでも相談を受け入居にあたっては御利用者様の状況に合わせ御家族の意見や希望をお聞きしてケアプランで実行している。入居されたら当分の間毎日家族に状況を電話でお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人や御家族と意見交換しながら暫定ケアプランを策定し御利用者様一人ひとりの状況と必要に応じて外出援助、通院介助や福祉道具使用等のアドバイスも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設の理念そのままに御利用者様各自の出来るレベルに合った生活リハビリを取り入れ、メニュー書き、洗濯物たたみ、イリコの頭とり、掃除手伝い、畑での農作物の収穫手伝い等お願いしたり一緒に協力し合って生活を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族の皆様にも御利用者様に対する「支援の在り方」として行きつけの美容院同行、行事の外出、墓参、自宅への外泊、通院等に同行をお願いして変化をご理解頂き一緒になって支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族、御親戚、友人、知人の方々が気軽に来ていただける雰囲気づくりをしている。趣味の継続、行きつけの店、自宅への外泊、外食、通院など御本人や御家族の都合のいい時に気軽にどうぞとお願いしている。	入居者のこれまでの暮らしや習慣、こだわりの継続を支援されています。習い事を続ける人、自宅に戻りリフレッシュする人、かつての職場の友人の訪問などもあり、入居者一人ひとりの馴染みの関係が継続できるように支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングに出ておられる方が多いためおしゃべりの輪の中にスタッフが混じったり、誕生日、日々のリクレーションの席もお好きなどころに座ってもらっている。食事の席は楽しんで食事出来るよう熟慮してきめているが、自分で好きな所に座られる方もおられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されても御家族からお電話をいただいたり、来所されて近況をお知らせいただいたり、秋のケアポート感謝祭をお知らせしたり、機会をとらえて他施設や病院にお見舞いに伺ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファレンスは基本的に御本人や御家族の参加をお願いしている。御本人や御家族の希望を聞き担当スタッフのモニタリング、日々の生活を通じてスタッフの把握していること等を踏まえ意見交換をしてケアマネージャーがまとめている。	アセスメントはセンター方式を使用されています。ケアは知ることから始まると認識し、家族、入居者から直接聞き取った情報を詳細に記入されています。また、連絡ノートを使用し職員間で情報共有が行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴の把握が大切になるので入居前の聞き取りをしっかりと行い入居されてからも日常会話の中から情報を得て担当スタッフが御本人の似顔絵とともに御本人の思いを本人シートに書き入れスタッフも聞き取ったことを書き足している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝夕の申し送り時にバイタルチェック、入浴、排便、服薬、食事摂取量等踏まえ各自の心身状況を詳しく申し送り、気を付ける情報を共有している。起床、就寝、食事時間、形状等は御利用者様の習慣、能力を考慮しており一人ひとりに適した生活リハビリを提案して日々の達成度をチェック表に記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>それぞれの方に担当を決めており毎月モニタリングを行い主治医や歯科衛生士からの情報、御本人や御家族の意見や希望を取り入れその人らしく暮らしていただけるようなケアプランを作成している。</p>	<p>介護計画は、担当スタッフ、関係者、家族の意見を聞きながら計画作成担当者を中心に見直されています。カンファレンスには入居者、家族も出席し、現状に即した介護計画が作成されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日オリジナルの日誌と個別の生活状況記録をつけており全体のスタッフ共有連絡ノートと1F独自の御利用者様に関する事、御家族からの連絡、スタッフの周知用事項等記入した連絡ノートでスタッフ間で情報の共有に努め小さな変化にすぐ対応できるようにしてケアの実践の中で生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>統一的でなく個々の状況や要望に沿ってサービスメニューが変わることがある。趣味、レジャーでの外出や催し物の案内、急な通院、入院等必要な付添いや(介護)タクシーの手配。デイサービスのレクリエーション参加の誘いに応じたりグループホームないだけでない生活の広がり支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会、老人クラブ、消防署、中学校、保育園、地域保健センター、地域包括支援センター、大学、ボランティアサークル等と連携しその人らしい生活が出来るよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設として提携医があるが、御本人や家族が今までのかかりつけ医や病院の通院をきぼうされれば基本的には家族対応でお願いしてその方が安心して希望される医療が受けれるよう支援している。</p>	<p>提携医療機関である内科、歯科、皮膚科の定期的な訪問診療が行われています。他の専門医受診には、家族が対応されます。ホームでは口腔ケアに力を入れ、週1回歯科衛生士による訪問指導を実施されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師の有資格者はいるが看護職員という協業という状況にはない。内科ドクターには毎週往診に来てもらっており夜も含め対応してもらっている。外科も受診や緊急時には速やかに対応してもらっている。皮膚科、歯科も往診をおねがいでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>御利用者様の入院・退院に当たっては提携医、病院の地域連携室と情報交換しながら御家族の希望を聞き御本人にとって最善の対策を立てるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化された場合や費用面も含め入居時に特養の申し込みはお勧めしている。看取りにかんしては2年前よりスタッフに研修を受講させており準備してきている。提携医、御家族とも相談して外部の受け入れ先のご紹介も行っている。</p>	<p>重度化や看取りに向けてスタッフは緩和ケア研修を受講し、ホームとして可能な限り取り組めるよう体制を整えつつあります。ホーム内にAEDが設置され、緊急時の対応について研修も行われています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>消防署指導による救急救命研修にスタッフが参加したり提携医による高齢者に対する緊急時対応、処置についての部内研修を行って実践力を高める努力をしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>深夜時間帯を想定して夜勤2人体制での消火避難訓練を消防署立会指導の下に実施している。</p>	<p>ホーム周辺には住宅が少ないこと、住民の多くが高齢者であることから、特に夜間想定訓練が年2回行われています。消防署の指導・助言を参考にしながら、通報の徹底、安全な場所への移動などの対応策を日頃から全スタッフが意識されています。また、防災器具メーカーから直接説明なども受けられています。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、人としての尊厳を守っていくことは企業としての理念である。プライバシーマークを取得しており社内研修でも学んでいる。スタッフはその指針に沿ってミーティングを行い意識づけて行動するようにしている。	入居者一人ひとりの生活習慣、こだわりや好みなど把握したうえで、混乱を招かないような言葉かけに努めておられます。トイレ誘導など、「あうん」の呼吸で自然に行われ、プライバシーへの配慮とともに良いコミュニケーションが図られていることが確認できました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	御利用者自身の意思を大切にしてい取り組みは、人格を尊重していくという方針と結びついており御利用者様に寄り添ってお話を伺い思いを実現できるよう支援している。レクリエーション等も声掛けはするが自己決定にお任せしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝時間はそれぞれの方の生活習慣に合わせてながら昼夜逆転にならないように生活リズムは徐々に整えるようにしている。それぞれの方に合った生活リハビリを取り入れ役割を担って頂いている。レクリエーションも参加の声掛けはするが御本人の自己決定にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節によって衣類を入れ替えたりや外出等生活のT. P. O. に合った衣類のコーディネートや朝の化粧、口紅など声掛けにて支援を行っている。出張理美容によるカット、毛染め、顔そり等のサービスが施設内でも受けれるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は季節を感じられる献立や畑で採れた旬の物を取り入れている。一人ひとりの体調や好みにも配慮しミキサーにかけたり肉が食べれない方には魚や卵等に替えて対応している。ジャガイモの皮むき、お茶入れ、配膳、下膳、お盆拭き、メニュー書き等手伝って頂いている。	入居者の自発性を引き出し、やる気を尊重した手伝いが役割として定着している光景がみられました。嚥下能力を考慮した食事形態や、ホームの菜園で採れた野菜を加えたり、出汁にもひと手間かけたり、味付けが単調にならないよう工夫をされています。また、おやつ作りも楽しまれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量は一人ひとりに合わせて記録して状況を把握するとともに体調に合わせて食事内容を見直している。入浴後、起床時イオン入り飲み物をご用意したりゼリー、プリン、ヨーグルト、牛乳等好みの物で摂取して頂く方や差し入れのサプリを摂取される方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯ブラシ、歯間ブラシ、義歯用歯ブラシを使って頂いている。自分では難しい方はスタッフが行ったり仕上げ磨きの援助をしている。義歯、コップ、歯ブラシも週1回消毒している。週1回歯科衛生士による口腔内のケアをお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排便チェック表を付けて情報を共有している。排泄パターンや状況を把握してトイレ誘導をさりげなく行う。夜間トイレへの移動に時間がかかって不安を訴えられる方にはポータブルをご用意している。また清潔を保つためホットタオルでの清拭をさせていただいている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導が行われています。自然排便のためサプリメントを利用する入居者もあり、個々に合わせた排泄支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排便チェックとともに、食事なるべく野菜を多く摂取できる献立にして便秘予防に努めている。水分摂取もこまめにお勧めし、便秘時には状況に応じて主治医から処方された薬も服用頂いている。毎日の体操や散歩も有効なので実地している。プルーンを便秘予防にと毎食後服用される方もおられる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則としては2日に1回の入浴としているが、御利用者様一人ひとりの体調に応じてシャワー、足浴、清拭等に対応させていただく事もある。入浴に要する時間もそれぞれの方の習慣に合わせている。	入居前までの生活習慣を尊重した入浴支援が行われています。入浴を好まない人にも、焦らず無理のない対応をすることで、気持ちに変化がみられるなど、入居者一人ひとりに合わせた支援に努められています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりの生活パターンに応じてエアコン温度、掛布団の調整、薬の服用、ホットミルク等の飲み物をお出ししたり足浴をしたりしてより良質の睡眠がとれるよう支援している。体力のない方や習慣のある方にはお昼寝をお勧めしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	介護職の弱点である薬の知識を得るため提携薬局の薬剤師による部内研修を年に何回かテーマを決めて行い感染症の知識と対応、薬の正しい服用、効能について学習している。新しい薬の処方があったら薬の解説と便覧を見たりして申し送り時にスタッフ間で情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日のレクリエーション、歌、しりとり、ドリル、ゴミ箱作り、掃除、洗濯物たたみ、イリコの頭とり、牛乳配達などの生活リハビリでそれぞれの役割を持って頂いている。初詣、花見、花火、盆踊り等の四季折々の行事や畑で収穫される野菜に季節を感じてもらい、散歩、誕生日会、音楽療法、ボランティアによる催しを通じて潤いのある生活を提案している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	畑や隣接している公園や比治山に散歩に行き、日常的に戸外の風や空気に触れて四季を感じていただく。行きつけの美容院やイベントへの参加、買い物、お稽古、墓参り等には御家族の協力をお願いしている。	玄関先での外気浴、ゴミステーションへのごみ出し、近くの自販機での買い物など折にふれ外出し、気分転換を図られています。また、自宅への外出、買い物、習い事など家族の協力を得て外出を支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を御自分で持ちたいと言われる方には家族の依頼により所持してもらっている。スタッフの支援で行事の時に買い物されたり自販機でジュースを買われたり外出した時タクシー代をお支払いになる方もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族に電話をしたいと言われれば、使っている。携帯電話も数人お持ちでお使いになれます。手紙も書かれるので、預かっている切手を貼って投函している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節感のある絵や生花を飾り、共用のリビングには毎月御利用者様とスタッフによる季節を感じる作品を作って飾り安らぎの場になるよう工夫している。食事時間はテレビを消し食事を楽しめるようにしている。空気清浄器は年中、風邪予防のため冬は加湿器の湿度を60%に保つようにしている。	玄関や居間には入居者が作成したちぎり絵や季節を感じる作品、写真が飾られています。手作りの大きな日めくりカレンダー、入居者が書いた「本日の献立表」が表示されています。昼食後には思い思いの場所で寛ぐ入居者の姿が見られました。管理栄養士による冷蔵庫内の定期的なチェックや、丁寧な掃除など清潔保持に努力されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	御利用者様が一緒に過ごせるテレビ前のソファやテーブルと椅子や横になれる量のプラットホーム、ベランダのベンチや外のガーデンテーブルと椅子など気分や状態にあった過ごし方が選べるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は使い慣れた筆筒や鏡台や椅子や机、お気に入りの物、家族の写真、カレンダー等御本人が寛いで過ごせる空間になるよう御家族の協力も得て環境を整えている。	居室には使い慣れた物、大切にしている物を持参するよう助言されています。入居者が混乱なく落ち着いて過ごせるような部屋づくりが行われています。タンスには各段に中身シールが貼られ、入居者が出し入れしやすいように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内は御利用者様の生活空間であり、寛ぎのリビング、食事スペース、レクリエーション空間、階段は機能訓練としても使用し多目的な生活・活動の場としている。能力に合わせて手摺、歩行器、杖、車椅子等を使って安全に移動できるような広さを確保している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「支え合い共に創る生活」を毎朝のミーティングでスタッフ一同唱和し日常生活の中で共通の認識のもとに自然に実践できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事の盆踊りに参加して踊ったり亥の子祭りに参加して一緒に楽しんでいる。近くの保育園児の歌や踊りの訪問、中学生の職場体験学習を受け入れ芋ほり等を一緒にする。介護福祉専門学校の生徒の介護実習Ⅰ、Ⅱを受け入れている。ケアポート感謝祭で地域の老若男女の方に楽しんでもらえる催しを入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター、市の依頼で町内会、銀行、県立高校衛生看護科、企業に認知症アドバイザー養成講座の講師を派遣したり来所や電話での認知症相談にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回の目安で開催している運営推進会議には家族、地域支援センター職員、民生委員、区役所介護保険係職員、歯科衛生士に参加してもらい取り組みの報告、地域や行政の情報を含め意見交換を行っている。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	「南区の食と風土を考える会」に参加、運営推進会議に区の職員の参加をお願いしたり市の要請を受けて認知症アドバイザー養成講座の講師派遣も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束マニュアルは作成しているが、今まで実施に至ったことはない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフが虐待防止の外部研修に参加しそれを部内研修で全員に周知し、ミーティングや日常業務を通じて確認し合い施設としても重要な取り組みの1つとしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ご家族に成年後見制度の活用をお願いしたりスタッフに制度の趣旨、内容について一層の理解をしてもらうために部内研修で取り上げる予定。管理者は成年後見人養成研修受講済み。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書の内容、運営規定、重要事項説明書について契約時に説明し、日々の生活での個別対応や将来の希望等をお尋ねしたり相談に乗ったりしてご理解頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者様の状況は毎月担当スタッフからご家族に手紙で報告し来所時にもご意見をいただいている。管理者は携帯電話での相談も常時受けている。カンファレンスもご家族の希望の日時での設定を心掛けている。苦情等の外部機関については重要事項説明書に記載して説明している。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する意見・提案については日々の申し送り時やミーティングで意見交換し運営の参考にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働条件や評価については社内規定による。処遇改善手当もスタッフに還元している。自己研鑽のため「資格取得奨励金制度」「通信教育会社支援制度」をもうけておりスタッフの自己啓発、向上心を高める環境づくりをおこなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの資質向上は必須のため部内研修は毎月開催している。部外研修も各スタッフ順番に受講し学んだ事を部内研修講師を務めることにより如何にしたら解りやすく人に教えられるかの学びの場としより深く理解するように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	「グループホーム事業者交流会」には役員としても参加しており活動を通じて利用者の紹介、空き部屋情報の共有等ネットワークを構築している。施設見学を兼ねた交流会、介護や認知症、看取り等のグループワーク、講演会・研修会にも都合のつくスタッフはなるべくたくさん参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心・安全・快適な生活を送っていただくため御本人の生活歴をできるだけ詳しく教えていただく。御利用者様各自に担当者を決めている。カンファレンスにはご本人、御家族の参加をお願いしご本人や家族の希望をお伺いしてケアプランを立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>申し込み、見学があった時点からいつでも相談を受け入居にあたっては御利用者様の状況に合わせ御家族の意見や希望をお聞きしてケアプランで実行している。入居されたら当分の間毎日家族に状況を電話でお知らせしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>御本人や御家族と意見交換しながら暫定ケアプランを策定し御利用者様一人ひとりの状況と必要に応じて外出援助、通院介助や福祉道具使用等のアドバイスもやっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>施設の理念そのままに御利用者様各自の出来るレベルに合った生活リハビリを取り入れ、メニュー書き、洗濯物たたみ、調理手伝い、イリコの頭とり、掃除手伝い、畑での農作物の収穫手伝い等お願いしたり一緒に協力し合って生活を楽しんでいる。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>御家族の皆様にも御利用者様に対する「支援の在り方」として行きつけの美容院同行、行事の外出、墓参、自宅への外泊、通院等に同行をお願いして変化をご理解頂き一緒になって支えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>御家族、御親戚、友人、知人の方々が気軽に来ていただける雰囲気づくりをしている。趣味の継続、行きつけの店、自宅への外泊、外食、通院など御本人や御家族の都合のいい時に気軽にどうぞとお願いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングに出ておられる方が多いのでパズル、数字合わせ等共通にできる趣味のかたは近くに座ってもらいおしゃべりしながら出来るように配慮している。誕生日、日々のリクレーション、食事の席はコミュニケーションをとるのが不得意な方がおられるため熟慮して決めて楽しんでもらえるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されても御家族からお電話をいただいたり、来所されて近況をお知らせいただいたり、秋のケアポート感謝祭をお知らせしたり、機会をとらえて他施設や病院にお見舞いに伺ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファレンスは基本的に御本人や御家族の参加をお願いしている。御本人や御家族の希望を聞き担当スタッフのモニタリング、日々の生活を通じてスタッフの把握していること等を踏まえ意見交換をしてケアマネージャーがまとめている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴の把握が大切になるので入居前の聞き取りをしっかりと行い入居されてからも日常会話の中から情報を得て担当スタッフが御本人の似顔絵とともに御本人の思いを本人シートに書き入れスタッフも聞き取ったことを書き足している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝夕の申し送り時にバイタルチェック、入浴、排便、服薬、食事摂取量等踏まえ各自の心身状況を詳しく申し送り、気を付ける情報を共有している。起床、就寝、食事時間、形状等は御利用者様の習慣、能力を考慮しており一人ひとりに適した生活リハビリを提案して日々の達成度をチェック表に記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>それぞれの方に担当を決めており毎月モニタリングを行い主治医や歯科衛生士からの情報、御本人や御家族の意見や希望を取り入れその人らしく暮らしていただけるようなケアプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日オリジナルの日誌と個別の生活状況記録をつけており全体のスタッフ共有連絡ノート2F独自の御利用者様に関する事、御家族からの連絡、スタッフの周知用事項等記入した連絡ノートでスタッフ間で情報の共有に努め小さな変化にすぐ対応できるようにしてケアの実践の中で生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>統一的でなく個々の状況や要望に沿ってサービスメニューが変わることがある。趣味、レジャーでの外出や催し物の案内、急な通院、入院等必要な付添いや(介護)タクシーの手配。デイサービスのレクリエーション参加の誘いに応じたりグループホームないだけでない生活の広がり支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会、老人クラブ、消防署、中学校、保育園、地域保健センター、地域包括支援センター、大学、ボランティアサークル等と連携しその人らしい生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設として提携医があるが、御本人や家族が今までのかかりつけ医や病院の通院をきぼうされれば基本的には家族対応でお願いしてその方が安心して希望される医療が受けれるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師の有資格者はいるが看護職員という協業という状況にはない。内科ドクターには毎週往診に来てもらっており夜も含め対応してもらっている。外科も受診や緊急時には速やかに対応してもらっている。皮膚科、歯科も往診をおねがいでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>御利用者様の入院・退院に当たっては提携医、病院の地域連携室と情報交換しながら御家族の希望を聞き御本人にとって最善の対策を立てるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化された場合や費用面も含め入居時に特養の申し込みはお勧めしている。看取りにかんしては2年前よりスタッフに研修を受講させており準備してきている。提携医、御家族とも相談して外部の受け入れ先のご紹介も行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>消防署指導による救急救命研修にスタッフが参加したり提携医による高齢者に対する緊急時対応、処置についての部内研修を行って実践力を高める努力をしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>深夜時間帯を想定して夜勤2人体制での消火避難訓練を消防署立会指導の下に実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、人としての尊厳を守っていくことは企業としての理念である。プライバシーマークを取得しており社内研修でも学んでいる。スタッフはその指針に沿ってミーティングを行い意識づけて行動するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	御利用者自身の意思を大切にしてい取り組みは、人格を尊重していくという方針と結びついており御利用者様に寄り添ってお話を伺い思いを実現できるよう支援している。レクレーション等も声掛けはするが自己決定にお任せしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝時間はそれぞれの方の生活習慣に合わせながら昼夜逆転にならないように生活リズムは徐々に整えるようにしている。入浴時間も夜なら入ると言われるか方には夜お誘いしている。食事時間もかかる方は早目に召し上がっていただいたり気を遣わなくていいよう同ようなペースの方と同席していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節によって衣類を入れ替えたりや外出等生活のT. P. O. に合った衣類のコーディネートや朝の化粧、口紅など声掛けにて支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は季節を感じられる献立や畑で採れた旬の物を取り入れている。一人ひとりの体調や好みにも配慮しミキサーにかけたり、とろみをつけたりして対応している。ジャガイモの皮むき、お茶入れ、配膳、下膳、メニュー書き等手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分摂取量は一人ひとりに合わせて記録して状況を把握するとともに体調に合わせて食事内容を見直している。入浴後、起床時イオン入り飲み物をご用意したりゼリー、プリン、ヨーグルト、牛乳等好みの物や差し入れのサブリを摂取される方もおられる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後歯ブラシ、歯間ブラシ、義歯用歯ブラシを使って頂いている。自分では難しい方はスタッフが行ったり仕上げ磨きの援助をしている。義歯、コップ、歯ブラシも週1回消毒している。週1回歯科衛生士による口腔内のケアをお願いしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排便チェック表を付けて情報を共有している。排泄パターンや状況を把握してトイレ誘導をさりげなく行う。また清潔を保つためホットタオルでの清拭をさせていただいている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便チェックとともに、食事なるべく野菜を多く摂取できる献立にして便秘予防に努めている。水分摂取もこまめにお勧めし、便秘時には状況に応じて主治医から処方された薬も服用頂いている。毎日の体操や散歩も有効なので実地している。お茶はいやだが牛乳ならと便秘予防にと飲まれる方もおられる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>原則としては2日に1回の入浴としているが、御利用者様一人ひとりの体調に応じてシャワー、足浴、清拭等で対応させていただく事もある。夜なら入浴すると言われる方には夜お誘いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりの生活パターンに応じてエアコン温度、掛布団の調整、薬の服用、ホットミルク等の飲み物をお出ししたり足浴をしたりしてより良質の睡眠がとれるよう支援している。体力のない方や習慣のある方にはお昼寝をお勧めしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	介護職の弱点である薬の知識を得るため提携薬局の薬剤師による部内研修を年に何回かテーマを決めて行い感染症の知識と対応、薬の正しい服用、効能について学習している。新しい薬の処方があったら薬の解説と便覧を見たりして申し送り時にスタッフ間で情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日のレクリエーション、歌、パズル、ドリル、数字合わせ、掃除、洗濯物たたみ、イリコの頭とり、健康足踏みなどの生活リハビリでそれぞれの役割を持って頂いている。初詣、花見、花火、盆踊り等の四季折々の行事や畑で収穫される野菜に季節を感じてもらい、散歩、誕生日会、音楽療法、ボランティアによる催しを通じて潤いのある生活を提案している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	畑や隣接している公園や比治山に散歩に行き、日常的に戸外の風や空気に触れて四季を感じていただく。行きつけの美容院やイベントへの参加、買い物、お稽古、墓参り等には御家族の協力をお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を御自分で持ちたいと言われる方には家族の依頼により所持してもらっている。スタッフの支援で行事の時に買い物されたり自販機でジュースを買われたり外出した時タクシー代をお支払いになる方もおられる。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族に電話をしたいと言われれば、使っている。携帯電話もお持ちの方が居られます。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節感のある絵や生花を飾り、共用のリビングには毎月御利用者様とスタッフによる季節を感じる作品を作って飾り安らぎの場になるよう工夫している。食事時間はテレビを消し食事を楽しめるようにしている。空気清浄器は年中、風邪予防のため冬は加湿器の湿度を60%に保つようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	御利用者様が一緒に過ごせるテレビ前のソファやテーブルと椅子や横になれる畳のプラットホーム、ベランダのベンチや外のガーデンテーブルと椅子など気分や状態にあった過ごし方が選べるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は使い慣れた筆筒や鏡台や椅子や机、お気に入りの物、家族の写真、、カレンダー等御本人が寛いで過ごせる空間になるよう御家族の協力も得て環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内は御利用者様の生活空間であり、寛ぎのリビング、食事スペース、レクリエーション空間、階段は機能訓練としても使用し多目的な生活・活動の場としている。能力に合わせて手摺、歩行器、杖、車椅子等を使って安全に移動できるような広さを確保している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

## 2 目標達成計画

事業所名 NTTグループケアポート広島 認知症対応型共同生活介護事業所

作成日 平成 25 年 3 月 8 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	39	女性の身だしなみで、習慣とされていたはずの化粧をしている人が2~3人と少ない。	女性が多いので、もっと多くの人に、今までしていた化粧を楽しんでもらいたい。	月1回でも皆で口紅やマニキュアをして、楽しめる時間を設ける。香りもその時に楽しんでもらう。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。